

優秀賞

小樽商工会議所（北海道）

運河を越えて～港を巷(ちまた)に -for our Future

地域（商工会議所）概要

- ◆ 小樽市の2023年度観光入込数は、**コロナ禍前を上回る年間760万人まで回復**。SNSやNetflix（配信ドラマ）の効果で、インバウンド客数も増加傾向。韓国・台湾に加え、タイやインドネシア、欧米からの観光客も増えてきている。
- ◆ 2022年、小樽観光協会がDMOに登録され、地域全体での観光推進体制が整った。小樽市としては、**歴史的建造物や景観を活かした「歴史まちづくり」**を進めている。

取組の概要・ポイント

- ◆ 2009年度から人口減少対策として始まった港湾振興プロジェクトの一環として、“港を巷（ちまた）に”をテーマとした振興策を推進。
- ◆ 10年にわたる取組によって、**「運河観光」から「みなと観光」への流れを生み出した**。この流れを拡大すべく、近年は着地型インバウンドツアーの造成や運河沿い倉庫の利活用等、運河地区のにぎわいづくりに取り組んでいる。
- ◆ プロジェクト実施にあたっては、幅広い業種の若手経営者が議論を進め、市民が参加するシンポジウムも開催。港湾管理者である小樽市や民間団体の協力も得ながら、**地域の関係者を広く巻き込んだ観光まちづくり**を進めている。
- ◆ 従来、小樽市にとって観光は重要な基幹産業の一つであるが、観光のマンネリ化や滞在時間の短さ、インバウンド誘致等といった課題に対し、**まちづくりとあわせた開発によって新たな観光動線を作り出し、その解決につなげている**。



▲小樽港には大型クルーズ船も入港し、港を起点とした人流が生まれている



▲地域の関係者が連携して観光まちづくりを進めている